

学校教育の在り方に関する対応方針

滝沢市教育委員会

令和6年12月

I 対応方針作成の背景

◇これまでの本市の取組の経緯

本市では、昭和 50 年台からの児童生徒の急増に伴う過大規模校解消のため、昭和 61 年には滝沢中学校、平成 8 年には滝沢東小学校、平成 31 年には滝沢中央小学校を開校し、本市の教育環境を整えてきました。

一方、姥屋敷小中学校の児童生徒数の減少が見込まれることから、平成 19 年度から「姥屋敷小中学校の今後の在り方」について、教育委員会、保護者、地域の方と合意形成を図ることを目的に、定期的に懇談会を開催してきました。東日本大震災による中断もある中、令和 2 年度まで 16 回開催しましたが、結論を出すまでには至りませんでした。

令和 3 年度から 4 年度にかけて、本市の「学校教育の在り方」について総合的な検討を行うために、有識者 20 名による「滝沢市の学校教育の在り方検討委員会」（以下「検討委員会」という。）を設置しました。その中では、これからの時代に求められる教育内容を勘案しつつ、児童生徒の減少や学校施設の老朽化に伴う視点などを踏まえ、市内小中学校の子ども達にとってより良い教育環境について協議を重ね、検討委員会による報告書が令和 5 年 3 月に市教育委員会へ提出されました。

検討委員会による報告書を受けて、令和 5 年度から 6 年度にかけて、複式学級の学校を有する姥屋敷地区および柳沢地区にお住まいの方及び保護者の方に向けて、報告書の内容を説明し、それに伴うご意見等も伺いながら、学校教育の在り方について検討を重ねてきました。

II 検討委員会による報告

◇「学校教育の在り方に関する報告書（概要版）」から

- （１）学校・学級規模については、大規模校も小規模校もそれぞれの良さがあることが確認されましたが、ある一定規模の児童生徒数が確保されていることが必要と考えます。
- （２）望ましい学級編制を考えた場合、滝沢市においては少なくとも「複式学級」について、その解消が必要であると考えます。
- （３）小規模校で学ぶことの良さや少人数ならではの教育活動が展開されていること、特に過小規模校は地域の核となっており、地域における活動拠点やコミュニティの大切な場となっていることを考慮した上で、総合的に検討する必要があります。
- （４）過小規模校の解消、特に複式学級の解消に向けた検討に取り組むにあたり、具体的な計画を策定する際は、地域の方々と十分な懇談を重ねながら取り組まれることを期待しています。

III 学校統合に係る基本的な考え方

検討委員会の報告書では、児童生徒数が多い学級においては学級の中で多様な考えに触れる機会が多く、豊かな人間関係を形成することが可能となること、また、中学校にあたっては免許を有する専門の教員の配置が可能となることで、各教科で専門性の高い授業が提供され、生徒の学習意欲や理解度が向上すること、さらに、児童生徒同士の学び合いや教職員や地域の人との対話

等を通じ、自己の考えを深める「主体的・対話的で深い学び」が可能となることなどから、『複式学級を解消すること』を基本の考えとします。

統廃合を検討する場合は、適正な学校規模を主眼とし、再統合することがないよう統合先を検討するとともに、統合により通学時間や距離が長くなる児童生徒については、スクールバス等を配備する等、子ども達の安全安心な通学環境及び教育環境の整備を実施します。

IV 今後の対応

1 対象となる学校の検討結果及び具体的方策

(1) 姥屋敷小中学校（姥屋敷地区）

令和5年度及び令和6年度に開催した地域懇談会において、令和8年度末をもって姥屋敷小中学校を閉校し、小学校は篠木小学校へ、中学校は滝沢南中学校へ統廃合することとします。今後、統合準備委員会を発足し、約2年をかけ学校統廃合にかかる準備を進めていきます。

(2) 柳沢小中学校（柳沢地区）

令和5年度に開催した地域懇談会において、同校ではしばらくは現状の児童生徒数で推移する見込みであることや、市内他の学校からの少人数での環境で学びたい児童生徒の受け皿となっていること、小規模校を望んで同地域に移り住む人がいること、学校施設の劣化が比較的少ないことなどの理由から、早急な統合が必要との判断には至りませんでした。柳沢小中学校においては、今後の児童生徒数の動向を見据えつつ、児童生徒の学びの環境の一層の充実のため、他校との交流学习に取り組みながら、定期的に地域懇談会を開催の上、望ましい教育環境について検討を続けていきます。

(3) その他の学校

児童生徒数が減少し複式学級編制となる見込みとなった場合や学校施設の老朽化等に伴い教育活動に著しく支障があると認められた場合に、地域の方々との懇談会を開催するなど、望ましい教育環境について検討を進めていきます。

2 検討の進め方

段 階	内 容	詳 細
第1段階	現状認識（現状、今後の状況、課題の共有）	保護者・地域住民の方へ情報提供
第2段階	意見交換（複式学級解消の検討）	保護者・地域の方との意見交換の実施
第3段階	方針決定	学校統廃合または学校存続の決定
決 定 後	「統合準備委員会」の設立	円滑な統合の実現に向けて、学校（複数校）・家庭（保護者）・地域・行政の四者が協働して準備を進める

(参考) 本市の児童生徒数と学級数の推移(推計)

(1)小学校

R6.5.1時点推計

小学校		R6		R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
		通常学級	支援級							
篠木小	児童数	296	5	301	295	288	284	263	241	233
	学級数	12	2	14	14	14	14	13	13	12
滝沢小	児童数	727	25	752	733	714	702	672	621	560
	学級数	24	4	28	28	27	26	25	24	22
滝二小	児童数	438	30	468	469	471	484	467	442	417
	学級数	17	7	24	24	24	24	23	22	21
鵜飼小	児童数	544	26	570	537	514	467	436	410	386
	学級数	19	5	24	23	22	20	19	18	17
一本木小	児童数	101	2	103	98	97	79	79	83	78
	学級数	6	1	7	7	7	7	7	7	7
姥屋敷小 (複式学級)	児童数	13		13	12	9	10	8	9	5
	学級数	3		3	3	3	3	3	3	3
柳沢小 (複式学級)	児童数	16		16	18	17	16	15	11	10
	学級数	3		3	3	3	3	3	3	3
滝沢東小	児童数	230	6	236	245	233	232	223	233	226
	学級数	11	2	13	14	14	13	12	12	11
中央小	児童数	587	20	607	559	559	530	511	493	445
	学級数	20	5	25	23	23	23	22	21	20
小計	児童数	2,952	114	3066	2966	2902	2804	2674	2543	2360
	学級数	115	26	141	139	137	133	127	123	116
合計	児童数	3,066		3,066	2,966	2,902	2,804	2,674	2,543	2,360
	学級数	141		141	139	137	133	127	123	116

(2)中学校

中学校		R6		R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
		通常学級	支援級							
滝南中	生徒数	618	19	637	637	590	586	572	568	541
	学級数	19	3	22	23	21	21	21	22	20
滝二中	生徒数	379	23	402	364	362	345	354	355	359
	学級数	13	4	17	15	16	16	16	16	17
一本木中	生徒数	62		62	65	57	59	56	53	44
	学級数	3		3	3	4	4	4	4	4
姥屋敷中 (複式学級)	生徒数	8		8	9	11	7	6	3	6
	学級数	2		2	2	2	2	2	2	2
柳沢中 (複式学級)	生徒数	11		11	7	8	8	9	9	8
	学級数	2		2	2	2	2	2	2	2
滝沢中	生徒数	503	17	520	553	558	588	552	552	531
	学級数	15	3	18	18	19	21	20	21	21
小計	生徒数	1,581	59	1640	1635	1586	1593	1549	1540	1489
	学級数	54	10	64	63	64	66	65	67	66
合計	生徒数	1,640		1,640	1,635	1,586	1,593	1,549	1,540	1,489
	学級数	64		64	63	64	66	65	67	66

※児童生徒数：全体在籍者数 学級数：通常学級＋特別支援学級